浜松山里いきいき応援隊 水窪地域担当 栗島 洸

令和3年4月(No.13)



山いき隊員だより(栗島隊員)



~ 最近の主な活動とできごと (3月11日-4月11日) ~

<みさくぼ季節の郷土料理冊子ができました>

山に生きる会が作成・発行する「みさくぼ季節の郷土料理」のレシピ冊子が完成しました。3冊で計40ページほどにわたり郷土料理を紹介しています。3冊組で300円で販売もしているそうですので、興味がある方は山に生きる会に是非お問い合わせください!



<大野・大沢地区にて>

3月末に大野の桜が見頃を迎えました。昨年の4月7日に着任した時には既に盛りを終えていて、今年こそは、と思っていたので見られて良かったです。また、その足で大沢地区を散策していたところ、昨年末に大沢に移住されたばかりの手塚さんと出会いました。農家民宿ほつむらの藤谷さんに教わりながら畑にじゃがたを植えるとのことだったので、少しだけご一緒させてもらいました。

畑は急傾斜で、昔ながらの山間の畑作といった感じでした。じゃがたの植え方や収穫の仕方にも急傾斜ならではの方法があるそうです。

大沢地区に入るとすぐ目の前に広がるこの畑に作物が植わっていることで、収穫時期には景色も一層 美しく見えるだろうな、と感じました。



<郷土料理・伝統食を学ぶ>

つぶ食いしもとさんが栃の実の処理・調理方法や大麦麹を使った昔ながらの味噌づくりの勉強会をされるとのことで、私もお手伝いをしながら一緒に勉強させていただきました。栃の実のアク抜き方法や大麦麹の育成、味噌の発酵の過程の話を伺うと、「料理は化学!」といわれるのがとてもよくわかります。それにしても、食べられないものをうまく処理して食べられるようにしたり、菌を食に利用したり、化学が発達していない時代によくこんなことが思いついたな、と感心してしまいます。

今回学ばせていただいたことは、また別途資料にして 地域の皆さんに共有したいと考えています。



★ 今後力をいれていきたい分野 ~ 鳥獣被害対策と狩猟 ~ ★

作物を荒らす鳥獣被害が深刻だという話はどの山間地域でも聞くことですが、獣との イタチごっこを解決する糸口は一向に見えません。獣の数に比べて狩猟者の数が少ない のも課題として挙げられます。

このような課題を解決するため、鳥獣被害の現状や狩猟の文化・作法等を正しく理解して、多くの人に狩猟について興味を持ってもらえるような活動にも少しずつ挑戦していきたいと考えています。隊員だよりを活用して少しずつ記事を上げていきたいと思いますが、私自身が狩猟の実情を知らないことには説得力のある情報を提供することができません。そこで、狩猟をされている方や鳥獣被害に困っている方に取材をお願いすることがあるかもしれませんが、差し支えなければご協力いただけますと幸いです。



シカかカモシカか... 食害を受けたヒノキの幼木



く針間野集落 >

針間野は水窪の最北で長野県との境に位置する草木地区の集落の一つです。標高900~940メートルに位置する高地集落でかつては15戸を数えたそうですが、現在住んでいる人はいません。

このあたりでは、かつて家の周囲の畑のことを「カイト」と呼んでいたそうですが、カイトとおぼしき場所はススキで覆われていていました。オイル缶を軒先に吊るしたものを見つけたのですが、きっとカイトに獣が侵入するのを防ぐために棒などで打ち鳴らしたのだろうな、と当時の生活の光景が浮かんできました。集落のすぐ隣の林には谷へと架線が伸びており、林業が営まれていたこともうかがえました。

人が住まなくなった集落に一人で立つと、どうしても昔の暮らしを想像してしまいます。 当時住んでいた方々が集落を去る次の年に使うはずであったであろう残された薪やワラを 見て何とも言えない気持ちになりました。

ただこういうことは、当時の暮らしの苦労を知らない自分が推し量れるようなものではないと思っています。時代の流れでどうすることもできないこともあるでしょうし、集落が存続したとしても集落に住む人の気質だったり暮らし方は形を変えていくものだとも思います。長い目で見ればそれは自然なことで、今までもそれが繰り返されてきたのでしょうが、自分はどうしても今ある暮らしが少しでも長く続いていってほしいと願ってしまいます。

余談ですが、○○カイト、カイト○○という林 地・畑地の字や人の苗字が私の地元の春野町でも見 られます。この「カイト」の意味を知って初めてそ れらの由来がわかってとてもすっきりしました。



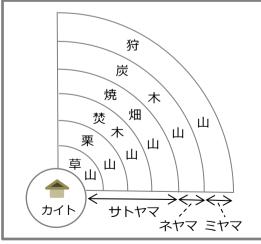


図:針間野の生活空間概念図

参考・引用: 自然と共に生きる作法 ~水窪 からの発信~ (野本 寛一 著)

<針間野での暮らし>

針間野の生活空間は左の図のとおり、大きくカイト、サトヤマ、ネヤマ、ミヤマに分けられていました。サトヤマはさらに①草山・栗山ゾーン、② 焚木山(たきぎやま)ゾーン、③焼畑ゾーンからなります。

カイト畑で大豆・小豆などを栽培し、サトヤマの焼畑でソバ・ヒエ・ア ワなどを栽培したそうです。ネヤマからは炭焼きに使う木や椎茸ボタ木を 出しました。また、養蚕に使う桑の葉もネヤマから採ったそうです。

ミヤマは山の神が支配する奥山の世界で、ネヤマは人の力が支配的であるサトヤマとミヤマの中間的なゾーンです。古くは猟師などがミヤマに入る際、山の神に祈りをささげたそうで、重要な結界点だったと考えられます。当時の猟師は、シカ、クマ、イノシシはもちろんムササビやタヌキも獲物にしていました。

ある家では、標高1000mまでをサトヤマ、1100mまでをネヤマ、それより標高の高い地点をミヤマと区分していました。針間野では、それぞれの空間にある資源を上手に使って生活していたことが想像できます。

<連絡先> 栗島:080-1623-0565 水窪協働センター 地域振興グループ:053-982-0001



時原





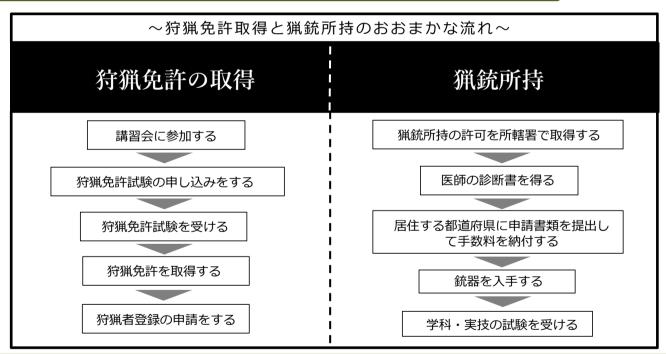
シリーズ ~鳥獣被害と向き合う~

増え続ける鳥獣被害を減少させるためには、電気柵を設置したり大きな音を鳴らしたりして獣を人里に近づかせないようにする方法や狩猟によって獣を捕らえて個体数を減少させる方法などがあります。

狩猟は鳥獣被害の直接的な原因である鳥獣の個体数を減らすので、狩猟者を増やす ことが鳥獣被害の減少に直結すると考えられます。しかし、狩猟は獣の命をいただく行 為でもありますし危険な道具も使用しますので、スポーツをするような気軽な気持ちで 新規狩猟者を募ったり「狩猟ブーム」などといった耳障りの良い言葉を使って若者に働 きかけることには違和感も感じます。

こんな感じなので「鳥獣被害対策について考えてくれないか」と依頼をいただき、自分なりに考えてはみたものの、何をするのが正しいのかなかなか答えが見つかりません。答えを見つけるためにも、まずは自身が狩猟について知らなければいけないので、まずは基本中の基本から勉強をすることにしました。銃猟を行うためには、狩猟免許の取得・猟銃所持の許可の両方を満たす必要があるので、それぞれの流れをまとめてみました。





<水窪射撃技術訓練センター>

長尾地区にある射撃訓練センターです。猟銃を上手に扱うためには訓練がかかせませんが、そういった射撃ができる場所が現在は少なくなっています。この訓練センターには、 浜松市内はもちろん、静岡県西部・愛知県など幅広い地域の方々が射撃の訓練や射撃の大 会のために足を運びます。今年に入ってから町内で電子機器を製造するオルイーさんが電 動のスコアボードを作ったそうで、採点作業の効率化が期待されています。

4月18日には射撃大会の水窪地区予選が開催され、町内の猟友会の方々が射撃の腕を競いあっていました。水窪では狩猟者は減り続け高齢化も進んでいますが、熟練の狩猟者は多いです。わな猟よりも銃猟をされる方が多いそうですし、このように訓練する場もあるので、水窪は銃猟を始める絶好の場所と言えるのではないです。た





~令和3年6月3日(木)・4日(金)~

活動報告会・活動成果展示会を開催します!

山いき隊員としての昨年度の活動報告も兼ねて地域の 皆さんに向けた発表会・展示会を開催します!

私は令和3年度も引き続き活動を行っていきますので、 昨年度関わらせていただいた方々はもちろん、関わりの なかった皆さんにも山いき隊のことを知っていただける ような機会になればうれしいです。

是非お気軽にお越しください!

山里いきいき応援隊 栗島 洸



~ ご案内 ~

<活動報告会>

日時:6月3日(木)10:00~11:00頃まで

場所:文化会館2階視聴覚室

内容:令和2年度の活動内容を報告します。一年間の仕事内容、そこから学んだこと、

自分が思う水窪町の魅力、令和3年度に取り組んでいきたいことなど。

<活動成果展示会>

日時: 6月3日(木) 11:00頃(報告会が終わり次第)~16:30

6月4日(金)9:30~15:30

場所:文化会館2階視聴覚室

内容:隊員だより、水窪での日々の暮らしや活動の記録、水窪町の集落写真集、

水窪のヒト紹介ポスター、わらじ作り動画や水窪町 P R 動画の視聴、

わらじ・杉玉・樹木の葉標本集等の制作物の展示

※ お好きな時間にご自由にお越しください。私はずっと会場におりますので、展示物や普段の活動内容などについてのご意見・ご質問などございましたらお気軽にお声がけください。

※ 隊員だより、活動の記録、写真集などの展示物を自宅でゆっくり読みたい方などいらっしゃいましたら、印刷したものをお渡しできますのでお気軽にお申し出ください。



<連絡先> 栗島:080-1623-0565 水窪協働センター 地域振興グループ:053-982-0001



浜松山里いきいき応援隊 水窪地域担当 栗島 洸

令和3年5月(No.14)



山いき隊員だより(栗島隊員)



~ 最近の主な活動とできごと (4月12日-5月11日) ~

<小学生山歩き 兵越峠~青崩峠>

4月23日に小学校3・4年生と山に生きる会の方々と 一緒に兵越峠と青崩峠をつなぐ歩道を歩いてきました。子 供たちは年輪の数え方や木の種類、山の歩き方や楽しみ方 など、たくさんのことを吸収していました。

大人でも疲れてしまうような山道でしたが、子供たちは 最初から最後まで元気に歩いていたのが印象的でした!

※ 事前に歩道を下見し、危険箇所を確認・整備した上で 歩いています。



苦い薬!キハダの木

森の游具

下見中の渋い後ろ姿

<田んぼとお茶が始まりました>

GW前後から田植えとお茶刈り作業が始まりました。田 んぼに水を張るとその場所の生態系が一日にして様変わり するような感じがして面白いです。カエルがそこらじゅう で鳴き始めますし、ツバメが巣作りのために飛び交うよう になります。

お茶は今年は例年よりも早めに収穫できるかと思いきや、 4月後半の朝の冷えやGWの天候不良の影響で作業が遅れ たところも多いと聞きました。





お茶刈り作業(春野)

〈中学生の地域学習 夏焼集落〉

5月11日に中学校一年生の男子生徒4人と山に生きる 会の方々と一緒に夏焼集落と夏焼山を歩いてきました。

夏焼集落では民家近くまで自動車道が通っていないため、 ふもとから集落に線(ワイヤー)を張って荷物を上げてい たそうですが、この動力はふもとに置かれた自動車による ものでした。急斜面の暮らしを楽にするための先人の知恵 を見た気がします。

生徒たちも話を熱心に聞い ていましたが、こういう「地 域の暮らしを知っている」こ とは、水窪の子供たちの大き な長所になっていくのではな いかな、と感じました。



車から伸びるワイヤー







〈熊伏山と4月の雪とヒル〉

4月18日に熊伏山(1,653m)に登ってきました。道中 の青崩峠付近から眺める中央構造線が作り出す直線的な谷 と峠の名前の由来になっている崩壊斜面はいつ見ても見事 です。山では4月も後半にさしかかっているにもかかわら ず、雹(ひょう)が降ってきて途中で雪に変わりました。

この日は山住峠でも降雪がありましたが、それでも山住 古道で多くのヒルが確認されたようです。今後の山歩きに は塩または忌避剤が必須になりますね。





令和3年6月3日(木)・4日(金) ~ 活動報告会・展示会を開催します! ~

<活動報告会>

日時:6月3日(木)10:00~11:00頃まで **場所**:文化会館視聴覚室

<活動成果展示会>

日時: 6月3日(木) 11:00頃(報告会が終わり次第)~16:30

6月4日(金)9:30~15:30 **場所**:文化会館視聴覚室







地域の方々と一緒に遠州と信州を結ぶかつての街道である**秋葉街道(信州街道**ともいう)を歩いてきました。 水窪側から**青崩峠〜飯田市八重河内**の集落跡を通って信州側のふもと(梅之木島)までの道のりです。 歩いている中で集落の石垣や日用品類、多くの通行人が利用したであろう茶屋の廃屋などかつての暮らしの面影が色々なものから見て取れました。

移動手段の発達によって簡単に遠くに行けるようになりましたが、それにより一番接点のあった集落同士がなくなっていき、**人々の暮らしの距離がかえって離れていってしまった**のは、なんというか世の中難しくできているところです。











多くの人々がより良い暮らしを求めて暮らしの形を 変えていくことで、得ることもあれば失うこともある というのは世の常だとは思います。

- ① 時代と共に新しい技術や思想が持ち込まれる中で
- ② 地域の暮らしや気質を守り続けていくこと

はとても難しいですが、地域の方々と一緒にこの両輪を地道に動かして進んでいくことが最終的に自分に求められていることかもしれないと思ったりもします。

話はそれますが、映画「もののけ姫」の主人公の言葉に「くもりなき眼(まなこ)で見定め、決める」というものがあります。抽象的で頼りない言葉に聞こえますが、複雑にからみあった正解のない課題への向き合い方の本質を突く言葉だと常々思います。

シリーズ 〜鳥獣被害と向き合う〜【ミニコラム】

【シカも食わない植物たち】常光寺山の頂上から上村ルート側に少し下ったところに、常光神社があります。ここでは植物の緑のじゅうたんに囲まれて鳥居が鎮座する不思議な光景を目にすることができます。この緑のじゅうたんの正体は「バイケイソウ」と「トリカブト」です。これらの植物には毒があるため、他の植物がシカに食べられていく環境で生息地を広げられたのだと思われます。シカが嫌がる植物には、このほかにもアセビやシキミなどがあり、水窪の山でも多く見られます。こういった植物を植林地に植えれば植栽木へのシカの食害が減るのではないかと思い、既存の研究を調べてみたのですが今のところ効果は認められていないようです。

ちなみに北海道アイヌにはトリカブトの毒を矢に仕込んだ「アマッポ」 という仕掛けでシカなどの獣を狩る猟法があったそうです。

バイケイソウもトリカブトも夏にきれいな花を咲かせるので、花が咲いた様子もまたお届けできればと思います。

<連絡先> 栗島:080-1623-0565

水窪協働センター 地域振興グループ: 053-982-0001



令和3年6月(No.15)

浜松山里いきいき応援隊 水窪地域担当 栗島 洸



山いき隊員だより(栗島隊員)



~ 最近の主な活動とできごと (5月12日-6月10日) ~

<山に生きる会設立10周年!>

いつもお世話になっているNPO山に生きる会が6月に設立10周年の節目を迎えました。節目の日は、ご時世がら懇親会をしたり長時間話したりすることはできませんでしたが、この日のために立てたのぼりの下でこれから挑戦していきたいことや水窪の魅力などの明るい話題で盛り上がりました。

「子供の頃住んでいた人たちや浜松の街の人が水窪に興味を持ってくれたら」「地域の子供たちが社会人になって街に

出たとき、またあの山に登って みようって思ってもらえたら いい」という設立当初の思いを 変わらぬ熱意で持ち続けている 会員の皆さんの活動を私も地域 おこし協力隊員の立場で後押し していきたいと思います。



<梅の実収穫・大麦収穫>

つぶ食いしもとさんの梅収穫・大麦収穫を佐久間地域 の山田隊員とともにお手伝いしました。梅は袋詰めして 販売、大麦は麹にして味噌づくりに使ったりパンの材料 にしたりするそうです。

大麦畑は今はなかなか見かけないですが、昔はそれなりに地域に畑があったそうです。はざかけは稲のイメージが強く、秋の風物詩だと思っていたので、この時期にはざかけをするのはとても新鮮でした。





<令和2年度活動報告会・展示会を実施しました>

6月3~4日にかけて活動報告会・展示会を実施しました。その際、自身の活動や制度についてのアンケートも実施したのですが、普段は聞けない率直なご意見が伺えて本当に参考になりましたし、温かいご意見も多くいただけてとても励みになりました。アンケートでいただいたご意見は、浜松市及び協働センターに共有の上、自身の活動にしっかりと反映させていきます。

これからも「自分たちが何をしているのか」ということを地域の皆さんにお伝えする場をたくさん設けていきたいと考えています。山いき隊をより良い制度にしていけるよう努めますので、ご意見・ご提案等も遠慮なくお寄せください!









<アンケート結果抜粋>

質問:栗島または山いき隊にどのような活動を期待しますか?

A 地域の高齢者の生活支援(スマホ教室・農作業等)	7
B 地域の団体・事業者支援(HP・資料作成、業務応援等)	8
C 展示会・講演会・ブログ・youtube等による魅力発信	6
D イベントの開催	4
E 文化の保存・技術の伝承	6
F 移住の促進・地域外との交流	8
G 起業・地域振興に資するプロジェクトの企画	4
H その他	0

【山﨑 洸一隊員】令和3年6月1日に新規隊員が着任しました!

6月1日に山﨑洸一さんが山里いきいき応援隊の水窪地域の隊員として委嘱されました。 山﨑さんは現役大学生で、大学生と山いき隊員の2足のわらじを履いて水窪地域で活動し ていきます。

これから趣味でもあるカメラを活かして水窪の魅力を存分に切り取っていってくれることと思いますので、ご期待ください!



山里いきいき応援隊 隊員紹介(令和3年6月時点)







~ 最近の主な活動とできごと (6月11日-6月26日) ~

<こいねみさくぼ粟苗移植作業>

NPO法人こいねみさくぼの作業に参加しました。今回はポットに芽を出した粟の苗を畑に移植する作業を行いました。畑で地域の方と話をしながら汗をかく貴重な時間でした。普段はそれぞれ仕事をしながらも、NPOとして休日に農作業を行うのは苦労が絶えないと思いますが、地道に活動を続けられている姿に頭が下がります。今年の粟の成長にも期待がかかります。



<山住古道ヒル取り>

水窪の山を小学生が歩くということで、事前に山に生きる会のメンバー3名と登山道のヒル取り作業を行いました。方法はいたって簡単で、割りばしと塩の入ったビンを持って山に入り、自分に向かってきたヒルを割りばしでつかんでビンに入れるというものです。自分は2時間くらいで67匹をとりましたが、最終的には一日で600匹とれたそうです。過去には一日で1000匹以上とったこともあるらしく、水窪でのヒルの繁栄具合が伺えます。

とはいえ、ヒル取り後はヒルの数がしっかり減っている実感があるそうで、地道な活動に頭が下がります。良い運動になって会話も弾んで山の現状も知ることができる非常に面白い取組だと感じました。



<能伏山登山道整備>

登山道の木道が落ちてしまっていたため、NPO山に生きる会のメンバーの方々とともに架け替え作業を行いました。昔から山で仕事をしてきた皆さんの技術を近くで見させていただいてとても勉強になりました。木材の種類によって使用方法・使用箇所を変えたり、地形やもともとある木の根を利用してより丈夫な構造にしたりと、何気ない作業に長年の経験が垣間見えました。

元の木道に使われていたカヤ材の内部が全く朽ちておらず、匂いも強く残っていたのが非常に印象的でした。カヤ材やクリ材は水に強く耐久性が高いというのは林業や木材の勉強をしていると良く聞く話です。水窪の山の中にかかっている年代物の橋や木道もカヤ材やクリ材を使っていることが多く、実際に歩いてみてその耐久性を実感することも多いです。

ここで生活をしていると、学生時代に座学で学んだことを実感として復習できる場面に何度も遭遇するのですが、こういった感覚を味わえるのがとても嬉しいです。





<麦秋の候>

「麦秋の候」は日本の72候の一つで、5月31日~6月4日頃に当たるそうです。文字だけ見ると秋のイメージを持ちますが、麦はちょうど6月初旬頃に収穫を迎えるので、初夏に当たります。

「麦秋の候」に当たる期間からは少しはずれましたが、 6月に入って何度かつぶ食いしもとさんの大麦の収穫・脱 穀作業を経験させていただきました。

大麦の穂は非常に落ちやすいため、刈り取り・はざかけ作業のあとに地面に落ちた穂を拾う必要があります。「落穂拾い」というフランスの有名な絵がありますが、大麦の収穫作業を体験して初めてこの絵が何を描いているのかが実感できました。





<水窪射撃技術訓練センター>

水窪射撃技術訓練センター(射撃場)にて水窪と周辺地域 の射撃クラブを対象とする射撃大会の見学と写真撮影をさせ ていただきました。実弾射撃とクレー射撃がそれぞれ行われ ましたが、どちらも緊張感と迫力が伝わってきました。

射撃場と狩猟(銃猟)者は密接に関連していると思います し、増え続ける鳥獣被害の対策を考える上でも射撃場は地域 にとってなくてはならない施設だと思います。射撃場を管理 されているNPOや猟友会の方々に射撃場や狩猟に関する質問 をさせていただくこともありますが、自分の初歩的な質問に も親身に対応していただき、とてもありがたいです。



くサンショウの実>

実家の山でサンショウの実を採りました。サンショウは普段山を歩いていると良く見 かけるのですが、いざ探してみるとあまり見つからないものです。祖父の記憶を頼りに 探してみると、しっかりその場所に太いサンショウの木が生えていました。その木は実 がならない雄木だったのですが、記憶の鮮明さに驚きました。

結局その後も山の中を探して20本程度木を見つけたのですが、実がなっていたのは3 本だけでした。サンショウは、実や葉は料理に、幹はスリコギ棒に使われる有用な樹木 です。サンショウに限らず、日常生活で使える樹木や植物の生育箇所を把握していると 何かと便利ですし山歩きも楽しくなるな、と感じました。



あるとうれしい身近な樹木 ~ 探してみませんか?

水窪は森林が96%を占めていますが、森林組合以外による林業はあまり行われておらず、山林を保有している方でも 自分の山に入ることは少ないかと思います。ただ、山には人工林以外にも日常生活に使えたり販売してお小遣いを稼げた りする可能性がある樹木も多く生育しているので、そういった樹木がどの程度存在しているのかがわかれば、山林所有者 のためにもなりますしご家族やお子様が山に入る楽しみも増えるのではないかな、と考えました。

そこで、今回は水窪の山で見つけるとちょっとうれしい有用樹木たちをいくつか紹介します。ご要望があれば、所有し ている山に入らせていただいて、どんな樹木がどこにどのくらい生育しているのか、といった調査も承りますのでお気軽 にご連絡ください。また詳しい内容も次回の回覧で紹介させていただきます。

サカキ



良く神棚に供えられる 樹木です。販売されて いるものも見かけます。

シキミ



「香の葉」として良く お墓に供えられます。 販売されているものも 見かけます。

シラカシ



とても硬い木で、ナタや クワなど農林業器具の柄 によく使われます。



シイタケのぼた木になり ます。クワガタやカブト ムシが集まります。

カヤ(バリバリ)



節分の日に家の軒先にイ ワシの頭と一緒に飾りま

キハダ



ものすごく苦い黄色い皮 が胃薬になります。百草 丸の原料です。

ハリギリ



若芽を天ぷらやおひたし にします・木材としても 優秀です。



水窪に馴染み深い樹木。 栃餅・栃粥などとして昔 から食されてきました。

サンショウ



実と葉は料理に使われま す。幹はスリコギ棒に良 く使われます。

クロモジ



高級つまようじの材料で す。さわやかな香りがあ ります。

水窪協働センター 地域振興グループ: 053-982-0001 <連絡先> 栗島:080-1623-0565









地域の森林を生かすために

水窪町は森林が96%を占める森林地帯です。かつてはその森林資源を活かした林業が盛んに行われました。水窪地域を取り囲む森林は豊かな緑で見る人の目を楽しませてくれますが、森林を利用した産業にはなかなか光が当たらず、資源として森林を活用することが難しい状況が長らく続いてます。戦後、長い時間をかけて先人たちが育ててきた森林を有効に活用することができれば、それは地域の魅力となり、何より森林所有者や林業関係者のやりがいにもつながっていくと思います。

そこで、森林・林業をより身近に感じていただくために、自分の立場で出来ることをいくつか挙げてみました。もし共感していただけるようなものがあれば、今後も積極的に実践していきたいと思いますので、ご感想・ご提案等いただけると幸いです。

< 林業の現状や森林に関わる仕事の魅力を正しく伝える>

林業の魅力・楽しさ・大切さはもちろん、厳しさや危険性も含めたありのままの林業を発信します。森林組合、国有林の森林官、農林事務所、林業事業者、森林所有者、製材業者、NPO法人など森林・林業・木材産業の分野に関わる方々はたくさんいます。そういった地域内外の関係者から話を伺って、それぞれの森林との関わり方をわかりやすくまとめることができたら、森林に関わる仕事への間口がより拡がるのではないかな、と考えています。





林業の仕事の様子(水窪町森林組合提供)

<地域の林業の歴史・先人の歩みを語り継ぐ>

かつて水窪の山の中には国有林のための事業所があり、たくさん の人が林業の仕事に関わっていました。山から木材を搬出するため、 森林鉄道も敷かれていました。

現在は伐採の音がいたるところで鳴り響いたり、木材が大量に搬出される様子を見たりすることはないですが、林業が盛んに行われていた時代があったことに一種のロマンを感じます。こういった地域の林業の歴史も大事に語り継いでいきたいと考えています。





昭和初期の木材搬出の様子(天龍木材株式会社所蔵)

<山と触れ合う楽しさを子供たちへ>

現代の子供の遊びは、安全性が重視されるあまり、山や自然からは遠ざかっているように見えます。山での遊びは確かに危険なこともありますが、何が危険であるかを学ぶことも生きていく上では重要だと思います。何より水窪で生まれて山で遊ぶ楽しさを知らずに育ってしまうのは少しもったいないように感じます。山で遊ぼう!

地域の魅力をリアルに感じて もらうためには、子供たちが山 と触れ合える場を増やしていく ことも大切なのではないかと 考えています。



<森林資源の様々な活用方法を提案>

山には木材として使われるスギやヒノキのほかにも、日常生活で使える有用な樹木がたくさん生育しています。料理に使われるサンショウの実やコシアブラの芽、農林業器具の柄として良く使われるカシの木、神事でお供えされるサカキなど挙げればキリがありません。そういった「一般にはあまり認識されていないけれど、見つけると嬉しい樹

木」の認知度を高め、活用を図っていくことが、地域の方々の山への興味を駆り立てるきっかけの一つになるのではないかと考えています。



今後も森林の魅力・山の暮らしを身を持って体験し、伝えていきます

これまでにNPO法人山に生きる会や森林組合の方々と関わらせていただく中で、地域の森林のことや林業の現状について多くのことを学びました。今後も、森林・林業に関わる方々と連携をさせていただきつつ、学ばせていただいたことを少しずつお返ししていけるよう、活動してまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



シリーズ ~鳥獣被害と向き合う~

く里に降りる獣たち ~ ニホンザル 編 ~ >

6月末に大里の商店街通りからほど近い場所でサルの群れが出没したそうです。ビワ の実を食べるために山から降りてきたのだと思われます。サルは頭が良く様々な農作物 に被害を及ぼすため、農作物を育てている人にとってはとても厄介な相手です。

人に直接危害を加えることは滅多にないですが、群れで行動するため近くで遭遇した ときには威圧感があります。木をゆらして人間を威嚇することも多く、山の斜面が揺れ て見えることもしばしばです。今回は二ホンザルによる農作物等への被害の特徴、有効 と言われている対策などを紹介します。



くニホンザルによる被害の形態>

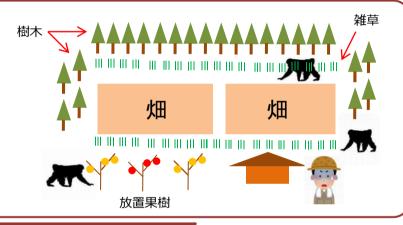
- ・根菜類を地上部に近い部分で折って食べる
- ・スイカやカボチャは農地の外に持ち出すこともある
- ・天竜区ではシイタケ食害の情報も多い
- ・人なれ、集落・農地への依存度が高まると、人の生活域へ の侵入や威嚇行為などの被害が発生するおそれがある





< サルが降りてくる集落の特徴 >

- ① 集落にサルを引き寄せる食べ物がある
 - 果実・野菜の放置、放棄果樹がある
 - 山で少ないエサを探すより里で探す方が楽 →農作物の味を覚えたサルが増加
- ② 集落が安心して出没できる場所になっている
 - 過疎化・高齢化が進行 狩猟者が減少 →人なれしたサルが増加
- ③ 集落・農地の周りに山林が接近 →いつでも集落に出没しやすい環境



対策

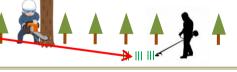
★農地近くの雑草木 を除去

…樹木の伐採、雑草の刈払い によって隠れる場所をなく

★採らない果樹は伐採

★放置果実・野菜を なくす

…エサになるものをできる 限り減らす







★侵入防護柵を設置

…電気柵を設置 柵周辺の樹木は伐採

★その都度追い払う

…サルが出没したら、 すぐにロケット花火等 で追い払う

※ 家畜の放牧やモンキードッグ(訓練した犬)の活用も効果があると言われている

畑

色々対策を挙げてみましたが、地域によって出来ることと出来ないことがあると思います。上で挙げたような対策方法 を元に、今後、地域に合ったやり方を考えていく必要があります。すでに猟友会による有害鳥獣捕獲だけでは対策しき れない段階に来ていると思いますので、「サルを見かけたら追い払う」「野菜や果実を放置しない」など、まずは動け る人が簡単なことから実践していくことが重要になってくると考えています。

水窪協働センター 地域振興グループ: 053-982-0001 <連絡先> 栗島:080-1623-0565

ホームページはコチラ! ▶ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/



浜松山里いきいき応援隊 水窪地域担当 栗島 洸

令和3年7月後期(No.18)



山いき隊員だより(栗島隊員)



~ 最近の主な活動とできごと (7月4日-7月25日) ~

<みさくぼじゃがた品評会>

7月4日に野菜を育てる会が主催する水窪じゃがた 品評会が開催されました。水窪じゃがたは水窪で育て られてきた昔ながらの小ぶりなじゃがいもです。皮が 薄く、煮転がしや串芋にするとおいしいです。品評会 では地域の方々が自慢のじゃがたを持ちより審査を受 けていました。審査後の即売会も盛況でした。





くお茶の整枝作業>

お茶の整枝作業(来年の収穫時に刈りやすいよう、茶の木 の表面を刈りそろえる作業)を行うとのことで、お手伝いを してきました。

この時期は、猛暑と強い日差しの中、草刈りをはじめとし た体に負担が大きい作業が重なるので、こまめな水分補給と 休憩が大切ですね。





<夏の常光寺山>

地域の山のPR資料作成の下見もかねて常光寺 山に登ってきました。5月に登ったときよりも 緑が深まり、樹木が作り出すトンネルと苔蒸し た岩々を楽しむことができました。

常光寺山には「行者場」というかつて修験者 が修行をしたという岩場があります。両側が崖 になっている細い岩場の先端に仏像があるので すが、そこからの景色には足がすくみます。

常光寺山は水窪では一番といっていいほど登りやすい山ですし、冬季を除けば登山口まで車でアクセスができるため、水窪を訪れる人に是非おすすめしたいです。



<鹿の平パトロール>

国有林のグリーンサポートスタッフ(登山のマナー啓発や簡易な登山道整備等を行う国有林の非常勤職員)のパトロールに同行させていただきました。

不動岳登山口から鹿の平(2,100m程度)までの登山道の目印表示を行いました。標高が高くなってくるにつれ、笹原をこぐように分け入らなければならない場所が多くなってくるため、ピンクテープを登山道沿いの木に巻き付けるなどしてわかりやすく表示しました。

道中には水窪を代表する、丸盆岳、黒法 師岳、バラ谷の頭といった山々を見渡すこ とができるスポットがあります。

標高2,000mを超える広大な笹原は、冒険心を駆り立てる壮観な景色でした。



地域の山を考える ~ 出張版 ~

業務外ですが、愛知県新城市周辺の山林所有者の山を歩かせていただきました。今まで山を管理されていたご家族が亡くなられた後の山の利用方法について実際に山を歩いて境界を確認をしながら所有者の方とお話をしました。

相談してくださった方は、亡くなられたおじいさんが山を管理していたものの、山林境界や資源状況については管理していたご本人以外はほぼノータッチだったため、「まずは境界や山の様子だけでも把握しておきたい」との思いを持たれているようでした。



実際に歩いてみると、山は非常に整っていて管理されていたおじいさんの所有山林へのこだわりを強く感じました。かつて家の裏山(セド山)であったであろう山は特に管理がされていて、間伐が行き届いた直径70cm~1mほどもある立派な杉が並んでいました。かつての畑の名残も山中に残っていて、山の景気が良く活気にあふれていた頃の集落の暮らしぶりが想像できました。

山林所有・相続の問題は、全国の山村地域の共通課題ですが、所有する山を実際に見て状況を把握することがまずは大切なのかな、と考えています。

<スマホ相談など気軽にお立ち寄りください!>

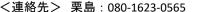
週に1~2日ほど、国道沿いの**自立高齢者コミュニティセンター**の場をお借りして事務作業をしています。お立ち寄りいただければ、スマートフォンの操作方法やインターネットの使い方のご相談等も承りますので、お気軽に声をかけていただければと思います!











水窪協働センター 地域振興グループ: 053-982-0001







今年も暑い夏を迎えまし たね。今回はそんな暑さを 忘れさせるミステリアスな 話題をお届けします。

ミステリアスといっても 怖い 話では なく「なぜ?」 「不思議!」と感じるよう なものばかりなのでご安心 ~だれい。

もし興味を持たれた話が ありましたら、是非ご自身 でも体験・来訪してみてく ださい!

こんなところに? ~秘境 小和田駅~

飯田線の小和田駅は最寄 りの塩沢集落から徒歩で山 道を四十分以上歩かなけれ ば辿りつけない文字通りの 「被境駅」です。

かつて郵便の配達員さん が塩沢集落に配達をする時 には、電車で小和田駅に降 りて山道を歩いて登って次

の電車 に間に合うようにま た駅に戻って こなければな らなかったようで、まるで タイムアタックのような ハード さだっ たこと が想像 されます。実際にこの仕事 を経験したことがある方が 「雪の日は特に大変だった」 としみじみ話してくれまし 4110



人が大好き! ~山に 潜むくせ 者~

夏の山で足元をうごめく黒 い影。山で仕事をする人に とってヒルは嫌な存在です。

水窪では、塩の人ったビン と割り箸片 手に山に入ってヒ ルを駆除する取組が行われて います。一日に千匹以上駆除 したこともあるそうです。そ れだけのヒルを目にするのは ある意味ホラーですね。



増田> 沢集落から小和田駅へと続

消えた緑のカーペット

常光寺山の頂上から上村 ルート側に少し下っ たところ に鳥居がある開けた場所があ ります。五月に訪れたときに は緑のカーペットのように一 **恒のパイケインりが綴われて** いました。

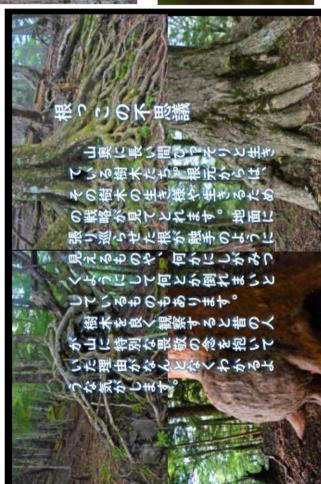
ところが七月に訪れてみる と、そこにあったはずの緑の カーペットが消えていました。 夏に花を咲かすはずなのです 炉、枯は むらほらと 呆いてい るだけで、それ以外の痕跡は ほとんどなくなっていました。 わずかこか月で何があったの **グ**フォ*心*を。

実は バイケ イソウは花を咲 かす時期に葉 が枯れる性質 が あるそうです。それに加えて 花を咲かす個体が少ないそう で、この二つの要素が重なっ てこのような景色が生まれた と思われます。目印となる鳥 **尾がなければ同じ場所とはと** ても思えないですね。





7月13日撮影









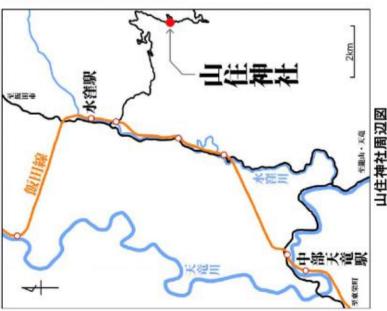
山住神社の「おいぬさま」

神社であり、伝説も多く残されています。住神社という神社があります。水窪町内では広く知られた格式のある水窪の中心市街地から東へ約十キロ、車で二十分ほどのところに山

かから一つのお話を紹介します。 り、転んだりしてはいけませんでした。今回はそうした言い伝えのなの途中どんなことが起ころうとも竹をおろしたり、後ろを振り返った青竹に挟んで片手にささげながら帰る必要がありました。また、帰りで神社に参拝し、神主からおいぬさまのおふだを受け取ると、それを貸し出されたと言います。おいぬさまを借りるためには必ず三人連れです。おいぬさまは狐憑きの狐をおとすときなどの場合に、神社から特に興味深いのは山住神社の神使と言われる「おいぬさま」の存在

後ろを斬り払った。手応えと同時に「ギャッ」と悲鳴が聞こえ、山犬った。九郎左衛門は心得のある武士だったので、その一瞬「やっ」と九郎左衛門は知っていた。九郎左衛門は慎重に歩いていたが、竹の島で転びでもすれば、背後から襲い掛かって嚙み殺されてしまうことを、れていると、どんな災難でも守ってくれるので安心だったが、もし道合ないからとおいぬさまを一匹お供につけてくれた。おいぬさまを連ったところ、つい帰りが遅くなってしまった。山住家では、帰り道が江戸時代のこと、水窪町竹の島に鎌倉九郎左衛門という男がいた。

内藤亀文著、水窪町教育委員会編『ふどき』(一九九一年三月一日、水窪町役場)参考文献「御手洗清『続 遠州伝説集』(一九七四年五月八日、遠州出版社)





ます。体験・発信していら、地域の魅力をせていただきなが 水窪で日々学ば

回髦

水窪町は森林が 九六パーセントを 占める森林地帯で す。かつてはその 森林資源を活かし た林業が盛んに行 われてきました。

現在は、森林組 合や国有林を管轄 する森林管理署な どが間伐を中心と した森林整備や治 山事業などを行い、

地域の森林を次世代 につなげるための役 割を果たしています。 林業と一口に言っ

ても、「植える・育 てる・伐採する・運 ぶ・それらの計画を 立てる」などその仕 事内容は多岐にわた ります。

厳しくも奥が深い 魅力的な林業の世界、 皆さんも是非一度覗 いてみませんか?

(写真の解説は

裏面()

水窪の産業

令和3年8月号 (栗島隊員) 山いき隊員だより

(No19)

林業

水窪の産業

<写真解説>

④ 下草刈り

植栽木の周りの雑草木を刈り払います。植栽木が雑草木よりも大きくなるまで毎年行います。

8 間伐後の林内

間な後の林内は林床まで光が届

き、雑草木も旺盛に生えるようになります。植栽木ものびのびと成長することができます。

② 集材 (フォワーダ)

丸太の状態になった樹木をフォ

ワーダ(林業用の運搬車)を利用 して土場まで運びます。日本では 傾斜に強いクローラタイプのフォ ワーダを多く見かけます。

7年目 90

チェーンソーの切れ味が鈍ってきた時に刃をやすりで研いで鋭さを取り戻すがでくの軽減を取り戻す作業です。労働負荷の軽減・安全にもつながる大切な作業です。

① 苗木の植栽

伐採跡地に苗木を植栽します。 苗木を背負って一本一本手作 業で植えていく方法は昔から 変わりません。

⑤ 枝打ち

値栽木の枝をノコギリやナタで切り落とします。この作業をすることで節のない丸太を育てることができます。

⑨ 伐採現場 (伐木・造材)

植栽木を伐倒し、枝を払い、 適切

な大きさに切りそろえます。この 一連の流れを「伐木・造材」とい います。写真では高性能林業機械 を使用しています。

③ 椪(はい)積み

土場等に運ばれた丸太をきれい に積み上げる作業をいいます。 この時、丸太を長さや樹種ごと にまとめます。

① 人材育成・研修

就職したばかりの現場従業員の研修 の様子です。現在は林業事業体にお いても新人研修や従業員育成の体制 が整っていることが多いです。

② 苗木の保護

獣から受ける植栽木の食害を防止

③ 獣害防止柵の設置

ます。シカが生息している林業地

においては必須の作業です。

するための柵 (ネット) を設置し

獣からの食害を防止するための対 策の一つです。植栽木を一本一本 囲って保護します。費用も労力も かかる大変な作業です。

⑥ 道作り

林業に必要な作業をするための道を作ります。林地への負荷が小さく、かつ繰り返し長く使えるような道を設計する必要があります。

⑩ 伐採現場 (木寄せ)

伐倒した樹木を造材しやすい場所まで移動させる作業です。 ワイヤーを使って引き寄せることが多いです。

@ 積荷・搬出

土場に積んだ丸太を運搬用のトラックに積み込んで木材市場や 製材所に搬出します。

⑦間伐

植栽木を間引く作業です。間伐した丸太は搬出することが望ましいてすが、コストに見合わない場合、林地に残されたままになります。

(本株)(本株)

丸太の状態になった樹木を架線を 張って土場(丸太を一時集積する場所)まで運びます。山の傾斜が大きい場所で良く使われる手法です。

⑤ 森林資源調査

収穫前の植栽木の本数や直径・樹 高などを測定します。熟練者は見 ただけでもおおまかな数字を言い

当てることができます。

作成者:浜松市 山里いきいきな援隊 水窪地域担当 栗島 洸

〈連絡先〉

乗島: 080-1623-0565 水窪協働センター 地域振興グループ: 053-982-0001 森林組合のHPの編集をお手伝いしました。詳しくはコチラ!→







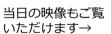


【龍の水辺芸術祭】水窪町の文化を紹介しました

8月22日に天竜四季の森と佐久間若者サミットが主 催する「龍の水辺芸術祭」がオンライン開催されまし た。天竜区の各地域の文化や風景を伝えることを目的 としており、山いき隊の各隊員も各地域の魅力や文化 を特集した動画や展示物を出展しました。

水窪からは地域の方 が作られた伝統的なわ らじや地域の産業・文 化・くらし・風景にま つわる様々な資料を出 展させていただきまし た。

展示は11月まで龍山 森林文化会館に設置さ れます。







佐久間地域紹介↑



龍山地域紹介↑





野鳥の森 散策道整備・門の修繕

8月28・29日に山に生きる会が野鳥の森の整備を実施しました。ツルハシやジョレンで荒れた散 策道を復旧するとともに、必要な箇所には足場となる横木を設置しました。全ての作業や道具の使い 方から熟練の技術を感じました。また、そういった作業を一緒にさせていただけて自分自身もとても 勉強になりました。汚れが目立つ散策道上の看板も掃除をしてピカピカになりました。(裏面へ続く)



また野鳥の森の遊歩道の入り口の一つである「ヤマガラの門」の補修も実施されました。半分に 割った竹をうまく利用した機能性とデザイン性を兼ね備えた屋根の作りが見事でした。近いうちに小 学生が野鳥の森を歩くということなので、是非この門にも注目してほしいところです。



水窪町森林組合ホームページをリニューアル!

水窪町森林組合さんから要望をいただき、ホームページをリニューアルしました!

より見やすいデザインに作り変えるとともに、各種申請様式やブログなどの新たな項目を追加しました。

個人的には、初めて林業の世界に 飛び込むような人でも森林組合の仕 事や林業の仕事の雰囲気がわかるよ うな作りを意識しました。

このように、打合せを重ねて何か を一緒に作り上げていくような仕事 ができるととても嬉しいですね。

水窪町森林組合

ホーム 組合概要 森林組合の仕事 みさくぼ路の里 ブログ 採用情報

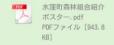


森林を守り育てる



水窪町森林組合では「森林を知り、森林を守る〜次世代への つなぎ役〜」の理念のもと、天竜区水窪町の森林をフィール ドとして様々な事業を行っています。

地域の96%を占める森林をよりよい形で次世代につなげるため「森林を知り森林所有者の思いを知る」ことを第一に考えながら、今日も山と向き合います。



ダウンロード

スマートフォン等相談室(隊員だより版)

先月からスマホ相談室を開始したところ、色々な方からご相談をいただくようになりました。 いただいたご相談の一部を隊員だよりでも紹介していこうと思います!

「請求される料金が高いんだけどどうして?」

スマホの料金は主に**「基本料金」「通話料金」「データ通信料」**の3つからなります。このうち、基本料金は定額ですが、「通話料金」「データ通信料」は使用量や契約内容によって料金が変わってくるので、この二つを見直す必要があります。一般的には、携帯・スマホの月額料金の平均は**6000円~8000円台**くらいなので、これを超える場合は、契約しているプランやスマホの使い方を見直した方が良いかもしれません。

通話 料金 長時間の電話をたくさんする方は通話料金が高くなっているかもしれません。「かけ放題」というプランに変更すると、定額でいくらでも電話ができるようになります。逆にあまり電話をかけない方だと、このプランは損をするだけなので通常のプランのままで大丈夫です。

データ 通信料 インターネットで動画等を見る方はデータ通信料が高くなっているかもしれません。契約時に使えるデータの上限量を決めているはずなので、上限を超えてはインターネットを使えないようになっているはずなのですが、あまりに料金が高いようであれば、契約したお店で聞いてみたほうが良いと思います。

<連絡先> 栗島:080-1623-0565 水窪協働センター 地域振興グループ:053-982-0001

ホームページはコチラ! **トト** https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/







미밑

麻布山 ~ 戸中山 ~ 前黒法師山

あざぶやま

とちゅうざん

まえくろほうしやま

麻布山(1,685m)、戸中山(1,610m)、前黒法師山(1,782m)の写真・動画撮影をしてきました。野鳥の森のすぐとなりに登山口があり、スーパー林道沿いに車を停めることができます。登山口から麻布山の山頂までの間には四阿(あずまや)が3つ設置されていて、登山道もよく整備されているため登りやすいです。

いずれの山も山頂から開けた景色が見えるわけではないですが、 ハリモミ、トウヒ、コメツガなどの針葉樹とナラ、ブナ、ダケカ ンバ、カエデ類などの広葉樹からなる美しい林内を楽しむことが できます。初夏のバイケイソウの花畑、秋の紅葉もとても魅力的 です。









水窪協働センター:いつかもないか事業

9月から水窪協働センターが実施する「**いっかもないか事 業**」が開始されました。「**いっかもないかぁ**」は、水窪弁で 「**元気にしているかぁ**」という意味合いの言葉ですね。

この事業では、ホームページで水窪の各地域の空撮映像を掲載したり水窪の暮らしの情報を発信するとともに、地域に思い入れや興味を持っている人たちを募って「**みさくぼ応援 団**」を結成していく取組を進めています。

「いっかもないか」と名付けた段ボールのボックスを水窪の映像を収めたDVDとともに配布し、地域外に住んでいるご家族などに水窪の品や情報を届けてもらう地域協力型のほっこりする取組も行われています。ボックスとDVDは地域振興グループ(正面玄関から入って一番左奥のグループ)でもらえますので、是非お立ち寄り下さい!

いっかもないか事業のHPはこちら → 集落や名所の空撮映像もこちらから見ることができます。 動画は今後も随時追加していく予定だそうです!







ふるさと・水窪の"今" 「本町」

シリーズ ~鳥獣被害と向き合う~

く里に下りる獣たち ~ ツキノワグマ 編 ~ >

ツキノワグマは本州から四国にかけて広く生息しています。大きさは平均的な個体で110~130cm、体重はオスが80kg程度、メスが50kg程度ですが、200kgを超えるような個体の捕獲事例もあるそうです。ブナやドングリ、山ブドウなどの果実を良く食べますが、ハチミツや昆虫、シカなどの動物の死骸などを食べることもあります。食物が不足する夏やブナやドングリが凶作の時に人里に出没することがあります。近年は全国的に人里へのクマの出没が多発しており、水窪地域でもまれに人里近くまでクマが下りてきた事例があります。



<ツキノワグマによる被害の形態>

クマには、スギ・ヒノキ・カラマツなどの樹皮を剥ぐ「クマはぎ」の習性があります。樹液を舐めるため・メスを引き付けるためなど諸説ありますが、その理由はまだ良くわかってはいないようです。大径木が被害を受けることが多く、被害にあった樹木は枯れてしまったり、枯れなくても商品価値が著しく落ちてしまう可能性が高いため、林業にとっては迷惑な存在です。クマはぎの被害木は水窪町内の山でも良く見られます。

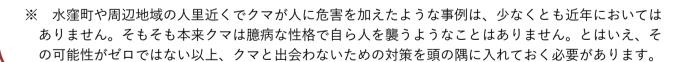




クマが人里に下りてきて農作物を荒らすような被害は水窪町ではほとんど見られませんが、人里近くにクマが出没した事例があるので油断はできません。

<クマの出没・被害を防ぐためには>

- ・農作業中にラジオなどの音が出るものを携帯するなど、存在をアピールする
- ・山林に接している農地での作業は特に注意し、周囲の雑草木などは刈り払う
- ・近辺でクマの出没情報があった場合、単独での作業は避ける
- ・生ごみ、野菜クズ、採りきれなかった果樹などを適切に処理する
- ・収穫物の収納庫は施錠する
- ・ガソリンなどの揮発性物質もクマを呼び寄せるため、保管に注意する



<クマが出没したら?>

クマが出没した場合は、まずは、水窪協働センター(☎982-0001)へ連絡いただきますようお願いします。その情報をもとに猟友会による追い払いやパトロールなどを実施します。早期の発見・通報が人と獣の双方を救うことにつながりますので、ご協力をよろしくお願いします。





<連絡先> 栗島:080-1623-0565 水窪協働センター 地域振興グループ:053-982-0001

ホームページはコチラ! ▶▶ https://www.tenryu-misakubo-life-yamaiki.com/









兵越峠 ~ 朝日山

国有林の朝日山(1,692m)パトロールに同行させていただきました。兵越峠付近の登山口から県境の尾根沿いを歩いて行きます。カラマツ人工林やサワラ、イチイ、ヒノキの立派な天然木を見ることができるのが個人的なおすすめポイントです。

山頂付近は広くなだらかで尾根がわかり づらいので要注意です。今回も目印となる テープや布を巻いてきましたので、それら が見える範囲で散策をするのが無難だと思 います。











地域の山を歩く経験は何度もさせてもらっていますが、そのたびに昔から水窪の山を仕事場としてきた方々から**当時の林業現場の雰囲気やエピソードを聞くのが何よりの楽しみ**になっています。

こういう話を聞いた時には、話してくれた人の感情や熱量も一緒に吸収して臨場感を伴った情報として自分の中に残しておきたいと思っています。









野菜作りを教えていただいています!

畑の一画を少しお借りし、作業方法を教えていただきながら大根の 種まきと白菜の苗植えをしました。畝(うね)を作ったり種をまいた りする作業は地元でも毎年見る風景なので、知ったようなつもりでい たのですが、自分でやると意外と勝手がわからないものです。

作業をしていると隣接する畑の方や近所の方が「畝が曲がっているわいねぇ」「苗幅はもっと広いほうがええぞぉ」などと声をかけてくれるので、それも楽しみになっています。







<井内さんの畑>

9月の初旬に桂山地区の井内さんのお宅に伺い、畑の仕事や昔のくらしの話を取材してきました。井内さんの畑では、タカキビ、昔キビ、ソバなどの昔ながらのものから、食用ホオズキ、天狗ナス、マンジェリコン(ハーブの一種)などの面白いものまで、たくさんの作物が育てられています。

色々な種類の作物が区画分けされて育てられている様子はとても綺麗ですし、季節ごとに色々な作業があって作物を育てる楽しみも増えるだろうな、と感じました。それぞれの作物の種をまく時期や育てるコツも教えていただき、勉強になりました。



< 子供の頃の思い出 ~ 山小屋で過ごした夜 ~ >

井内さんが子供の頃は**焼畑**(「**山つくり**」とも言う)が地域でまだ行われていたそうです。山で木を伐採したところに火を放ち、その後数年間、そこで**ソバや大豆**などを育てるのですが、作物を目当てに**獣**もたくさん寄ってきました。そのため、夜に畑近くの山小屋に上がっては、**竹を半分に割って並べたものを木の棒で打ち鳴らして獣を追い払った**そうです。子供も家にいてもつまらないので、親に付いて山小屋で一夜を過ごしたそうですが、獣を追い払う時に大人たちが発する「**よぉ~い!**」という掛け声が今でも思い出されるそうです。

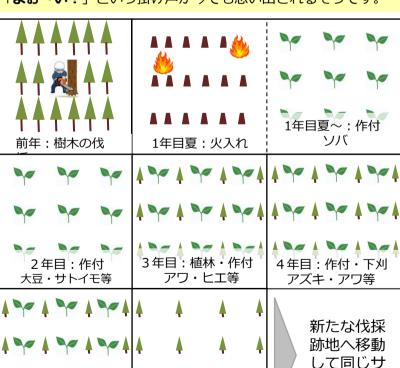
私も町内の集落で軒先にぶら下げた**一斗缶 を打ち鳴らして獣を追い払う**ような仕組みのものは何度か目にしたことがあるのですが、 それと似たような役割でしょうか。

翌朝から仕事もあるだろうに、夜な夜な山 小屋で獣を追い払うのは大変な苦労だったと 想像されます。山小屋の中でカンテラの明か りを頼りに勉強したねえ、と懐かしそうに話 してくれました。

焼畑や昔の暮らしについては、以前も隊員だよりで取り上げています。協働センターの階段下のところに全号を掲示しておりますので、興味がある方は是非ご覧ください!



一斗缶(針間野)↑



5年目秋以降:

林地に戻す

焼畑の1サイクルのイメージ(文献参考)↑

<連絡先> 栗島:080-1623-0565 水窪協働センター 地域振興グループ:053-982-0001

イクルを繰

り返す

DO I DO I DO I I

5年目:作付・下刈

ヒエ・アズキ等